

# 令和七年 第二十八期くまもと俳句ポスト

第二十八期開函

熊本大学名誉教授 岩岡 中正 選

特選

古井戸に処暑の風吹く内坪井

福岡県久留米市

古賀 典子

【講評】

「処暑」は、やつと暑さもおさまる頃。古井戸にも秋めく風が吹いて、あたりは静か。いかにも、内坪井の漱石旧居らしいたたずまい。旅人もほつと一と息をついて懐古する姿をよくとらえている。

わが輩通り賞

すれ違ふ顔の陰しき酷暑かな

熊本県熊本市

中村 和徳

入選

冬蝶の何処ともなく消えゆけり

岐阜県岐阜市

柴田 恭雨

奉納の砲声高く秋の空

熊本県熊本市

河村 邦比呂

根子岳をえいさと跨ぎ大根引く

熊本県熊本市

佐藤 誠吾

佳作

朝に見て夕に見上ぐる沙羅紅葉

熊本県熊本市

幸田 眞理子

もののふの声聞こえたる蝉の声

東京都大田区

近藤 美佳

晩秋の釣耕園に虚子の句碑

熊本県熊本市

坂口 美穂子

美作を旅しここまで武蔵の忌

兵庫県姫路市

宗平 真実

西郷の足跡追いて夏の山

鹿児島県鹿児島市

池田 修一朗

新涼やお地藏さんとヘルンさん

熊本県熊本市

岩田 海季

水音や肥後あさがおの鉢を置く

宮崎県宮崎市

熊瀬川 貴晶

露けしや銃痕語る白き壁

熊本県熊本市

西田 典子

日傘の妻追うてわが輩通りかな

熊本県熊本市

後野 陽

雲の峰振り返れば遠く遠く

東京都中野区

中尾 知恵子

投句総数 百七十五句

市内 七十九句

市外 九十六句

開函日 令和七年十二月三十一日